

別記第1号の2様式

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学・**通信**）

事業者名： 株式会社 知歳

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画	
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数	実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3 (1) 講義及び演習：介護保険や介護保険外サービス、介護サービスのありかたについてグループで検討し、発表する。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3 (2) 講義及び演習：視聴覚教材を使用して現場職員の体験談を聞き、働く職場のイメージをグループで検討し、発表する。
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	6 (1) 通信講習のみ
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	3 (2) 通信講習、講義及び演習：自立、自立支援について講義を行い「ベッドで寝たきりになる」という想定でどのような症状がでるかグループで検討し、発表する。
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	2 (1) 通信講習のみ
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	1 (2) 通信講習のみ
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	2 (3) 講義のみ
(4) 介護職の安全		(4) 同左	1 (4) 講義及び演習：介護職の心身の健康管理について講義を行い、感染対策として基本的な手洗いをを行う。

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	(1) 同左 3	(1) 通信講習のみ
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	(2) 同左 3	(2) 通信講習のみ
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左 3	(3) 通信講習、講義及び演習:医療行為と介護について講義を行い、介護と看護のそれぞれの特徴についてグループで検討し発表する。
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左 3	(1) 通信講習のみ
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左 3	(2) 講義及び演習:記録における情報の共有化・報告・コミュニケーションを促す環境について講義を行い、事例に基づきケースカンファレンスシートの記入方法を体験する。
6 老化の理解 6時間	6 老化の理解 6時間	6 老化の理解
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	(1) 同左 3	(1) 講義及び演習:老化に伴う心身機能の変化について講義を行い、加齢に伴い喪失する事についてグループで検討し、発表する。
(2) 高齢者と健康	(2) 同左 3	(2) 通信講習のみ
7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左 1	(1) 通信講習のみ
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左 2	(2) 通信講習、講義及び演習:認知症の概念について講義を行い、「認知症診断テスト」を体験してみる。
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	(3) 同左 1	(3) 通信講習のみ
(4) 家族への支援	(4) 同左 2	(4) 講義及び演習:介護負担の軽減について講義を行い、ハンドケアをグループになって行う。

別記第1号の2様式

8 障害の理解	3時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50~55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障害の理解	3時間
(1) 同左	0.5
(2) 同左	1
(3)	1.5
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10時間
(1) 同左	2
(2) 同左	2
(3) 同左	6
イ 生活支援技術の講義・演習	55時間
(4) 同左	2
(5) 同左	2
(6) 同左	12
(7) 同左	12
(8) 同左	6
(9) 同左	6

8 障害の理解	
(1) 通信講習のみ	
(2) 通信講習のみ	
(3) 講義及び演習:家族の心理・かかわり支援について講義を行い、障害者の家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスをグループにて検討し、発表する。	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 通信講習のみ	
(2) 通信講習のみ	
(3) 通信講習、講義及び演習:からだのしくみの基礎について講義を行い、バイタルチェックの実技演習する。	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 通信講習のみ	
(5) 通信講習のみ	
(6) 講義及び演習:事例に基づき身体状況に合わせた衣服の選択をグループにて検討する。衣服の脱着を実技演習する。	
(7) 講義及び演習:事例に基づき利用者、介助者にとって安全で負担の少ない移動・移乗をグループにて検討し、発表する。また、ベッドから車椅子への移動・移乗を実技演習する。	
(8) 講義及び演習:食事関連福祉用具を使い、食事をする。また事例に基づいき食事の介助をグループにて実技演習する。	
(9) 講義及び演習:羞恥心や遠慮についてグループで検討し、発表する。目、鼻、耳、爪の清拭をグループにて実技演習する。	

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	
(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	
介護実習 ○時間	
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間	
在宅サービス提供現場見学 ○時間	
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り 4時間	
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計 (130時間)	

(10) 同左	6
(11) 同左	6
(12) 同左	3
(実習) [※] 時間	
ウ 生活支援技術演習 10時間	
(13) 同左	4
(14) 同左	6
10 振り返り 4時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	1
計 (130時間)	

(10) 講義及び演習:プライド、羞恥心、プライバシーへの対応についてグループで検討し、発表する。ポータブルトイレを使用し、排泄の介助を実技演習する。
(11) 講義及び演習:安眠の工夫についてグループで検討し、発表する。また、シーツ交換からベッドメイキングの実技演習する。
(12) 講義及び演習:「身近な死についての体験」についてグループで検討し、発表する。
(実習) [※]
ウ 生活支援技術演習
(13) 講義及び演習:事例に基づき利用者、介護職員に分かれて役割分担と状態像を確認する。介護計画、介護手順などの書き方を体験する。
(14) 講義及び演習:利用者、介護職員に分かれて、事例に基づき一連の支援方法の流れを想定して行う。終了後それぞれの立場から介護の方法について検討し、発表する。
10 振り返り
(1) 講義及び演習:研修を通じて学んだことを振り返り、各自発表する。根拠に基づく介護についての要点をグループでまとめる。
(2) 講義のみ

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。